

## 令和4年度 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会議事録

日時	令和5年1月12日(木) 午後2時30分から午後4時
場所	豊橋市保健所 第1会議室
出席者	豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会委員6名
欠席者	1名
事務局	豊橋市健康部保健所健康増進課

### 議題(1)豊橋市歯科口腔保健推進計画 5年間の取り組みの進捗状況について

(ア)目標及び経年実績・評価

【資料1】

(イ)取り組み状況

【資料2】

事務局 資料1、資料2説明。

A委員 愛知県における現状や取組状況について、紹介いただけるという事なので、B委員より説明をよろしくお願ひしたい。

B委員 愛知県における現状や取組状況について説明。  
基本のう蝕予防・歯周病予防を重要視して、健康格差の問題も考えながら取組みを進めている。  
また、地域で取り組むのが難しい環境整備についてもサポートするような事業も行っている。人材育成についても進めている。母子保健から高齢者保健まで取組みができるような教育を行っている。

A委員 コロナ禍での歯科保健への取り組みについては、特に集団生活の場である小・中学校での取組みは難しい部分もあったかと思いますが、学校歯科健診やフッ素洗口など学校保健の状況や今後の見通しなど分かればお聞かせいただきたい。

事務局 学校歯科健診については、通常6月末までに行う事になっているが、令和2年度は休校などもあり、6月末までにはできなかった。学校歯科医の先生の御協力もあり、期間を延長してすべての学校で実施することができた。  
令和3年度、令和4年度については順調に実施することができた。フッ素洗口は、コロナ禍で実施率が減っている。学校での歯みがきについても、約半数が取りやめている状況である。徐々にではあるが、フッ素洗口も学校での歯みがきも実施していけるよう学校に対してお願ひをしている。  
5年間の DMF (むし歯経験を表す指標)についてはよくなっている。  
これは、今までの歯科保健の取組みの成果であると認識している。  
逆にコロナ禍の影響として、今後悪くなってしまうのではないかという不安もある。  
日常に戻せるように連携を図っていきたいと考えている。

B委員 12月28日付けで厚生労働省から、フッ化物洗口に関する考え方について通知が発出された。それに付随して、新マニュアルも出来ている。そちらを確認していただきながら、

引き続き推進していただきたい。

フッ化物配合歯磨剤(歯みがき粉)の4学会推奨についても出ている。

乳幼児期から高齢者まで使ってくださいという内容である。

こちらも併せて啓発していただきたい。

#### (ウ)アンケート調査結果について

・市民意識調査の実施状況について

【資料3-1】

・障害者福祉施設、高齢者施設における歯科保健アンケート結果について

【資料3-2】

- 事務局 資料3-1、資料3-2説明。
- A委員 地域で高齢者福祉を担っていらっしゃる地域包括支援センターのお立場から、日ごろの活動支援を通して思うことや感じることなどあれば教えていただきたい。
- C委員 施設に関しては、直接関与していない。デイサービスとかグループホームの、推進協議会に出席する限りでは、お口のケアについての関心は高い。お口の体操などの予防については、ほとんどの施設で実施している印象である。在宅の方々を主として訪問しているが、個別というよりは地域の集まりにおいて「オーラルフレイル」についての講話依頼が多い。「フレイル」という言葉は浸透していない。  
以前、オーラルフレイルのリスクアンケートを取ったことがある。コロナ禍だったが、フレイルの割合が高かった。3人中2人がオーラルフレイルだった。
- 事務局 入所系の施設へのアンケートを実施したとのことであるが、施設の運営基準が変わって令和6年3月末までに口腔管理体制の強化をしなければならない。  
そのため、嘱託医や協力医の先生を持つ施設の数が増加したのではないかと思う。  
まだの施設については、広域連合とも協力して周知をしていきたいと考えている。
- A委員 歯科医師会においても、協力体制をとっていく必要があると考えている。
- B委員 最終評価に向けて資料を揃えているところである。  
障害者の入所施設を対象にアンケートを取り終えたところであるが、入所系は100を超える施設数の中で、97%の施設が協力歯科医がいると答えている。  
豊橋市では、14施設中8施設しか協力歯科医がいないという結果になっている。  
地域差があるのかどうか。調査結果を精査して、支援できる部分については考えていきたい。
- #### (エ)計画策定後の新たな取組みについて
- 【資料4】
- 事務局 資料4説明。
- A委員 新しい評価方法であるため、数字として揃いにくく評価が難しい側面がある。  
糖尿病予防対策についても、医歯薬連携で進めているところである。

- D委員 医歯薬連携事業については自分も参画しているところである。初診の糖尿病で受診した人に、眼科じゃなくて歯科に行けというのはなかなか難しい。ただ、かかりつけ患者に対して、歯科受診を勧めることはできる。当院では、パンフレットの説明を看護師で行っているが、看護師に依頼することにより従業員教育の機会にもなっている。年に1回は歯科受診をしてもらえるように働きかけをしたい。
- E委員 歯周病と糖尿病の医歯薬連携事業については、昨年度より糖尿病の処方箋持っている人に歯周病と関係があることを伝えさせてもらっている。県のデータにはなるが6割の患者さんが糖尿病と歯周病に関連があることを知らなかったという結果が出ている。また、啓発をして受診勧奨を行ったところ実際に受診してくれた人も多かった。豊橋市でもいい数字が出るといいなと思っている。
- A委員 糖尿病も重症化すると腎症などにもつながる。医療費削減の観点からも大切な取組みだと思う。
- D委員 腎症だけではなく網膜症でもお金はかかる。合併症が出てくると、心筋梗塞・脳梗塞・心疾患も含めてもコストがかかってくる。歯を健康に保つことも大切である。
- F委員 普及活動として、「歯の健康フェスティバル」の中で、マスク生活でもできるお口の健康というテーマで、鼻で呼吸することの意味について啓発を行った。ガムを使ったトレーニングやあいうべ体操を紹介し好評を得た。また、長寿介護課の事業である「シニアのための食とお口の健康講座」では、管理栄養士さんと一緒に実施した。口腔機能の低下予防について取組みを行っている。こういった指導ができる歯科衛生士は多くはいないため、人材育成についても課題として認識している。会員向け研修会を開催し、裾野を広げていきたいと考えている。
- 事務局 シニアのための食とお口の健康講座については、コロナ禍で参加者数も減少している。今年度少し回復はしているが、まだ参加者は半数程度である。多くの方に興味を持ってもらえるように、事業を進めていきたい。高齢者セミナーなどの機会に組み込んでもらったり、保健と介護の一体化事業のリスクの高い対象者の方をターゲットにしたりなど工夫をしていきたい。
- 事務局 こども保健課は歯科とは関りが深い。こどものう蝕予防や妊産婦歯科健診の受診率向上や低出生体重児の問題など重要視している。妊産婦歯科健診の受診率がなかなか上がらない。しっかりと対策をしていきたい。新しい分野についても考えていきたい。

(オ) 取組み及び目標の評価方法について

【資料5】

- 事務局 資料5説明。
- A委員 行政サイドの取組みや評価方法について、説明があったが行政以外(地域・関連団体)についてはどのように考えているか事務局より説明をお願いしたい。

事務局 取り組みについては冊子の 22 ページ以降に具体的なものが載っている。  
個人・家庭・地域・団体・行政、それぞれが取り組むものが記載されている。  
個人や家庭については、市民意識調査の結果で把握ができるのではないかと考えて  
いる。団体の取組み等については、把握が難しい。中身を見ると、歯科医師会の部分が  
たくさん載っている。ぜひ、御協力をお願いしたい。いかがでしょうか。

A委員 豊橋市の歯科医師会と豊橋市は風通しがいい関係が構築されている。  
歯科医師会が困った時は行政に相談するし、歯科医師会として御協力できることが  
あれば聞いていただければいい。  
いい関係を続けながら、色々な課題に取り組んでいければと考えている。

**議題(2)次年度の改定計画の策定スケジュールについて(案) 【資料6】**

事務局 資料6説明。